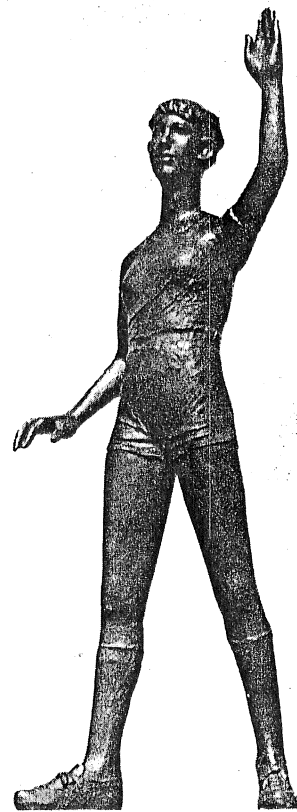


発行責任者

上田高女・染谷丘高校
東京同窓会
会長 小林 ぶき子
〒177 東京都練馬区
大泉学園町2-27-11
TEL 03-921-7340

呼吸



長野県上田染谷丘高等学校
創立八十周年記念 制作 福家あや
一九八一・一〇

東京同窓会の皆さま方には、お健やかに
かにお過ごしのことと存じ、お喜び申
上げます。

日ごろから、母校の発展のために格
別のお力添えを賜り、まことにありが
たく厚く御礼申し上げます。

母校の近況について、概略をお知ら
せいたします。

本年度は、生徒数一三一九名をもっ
て出発いたしました。生徒の募集定員
は、一・二年が各一〇学級四五〇名、
三年が九学級四〇五名であります。男

母校の近況にことよせて

長野県上田染谷丘高等学校校長 両角 辰文

女の比については、学校全体で男子が
四〇・二%を占めております。私が着
任いたしました五九年度は男子が三
五・五%であり、その後、年々男子が
増加してきました。出身地別では、上
田市が約六〇%、東部町・真田町が約
一七%、青木村が約二%、北御牧村・
坂城町・その他で約五%であります。

ご案内のとおり昭和四九年度から、普
通科の学区制が改められ、県下が二二
通学区となり、上田市・小県郡は第五
通学区に所属し、調整区である北御牧
村・坂城町からは通学が認められてお
ります。

教職員については、教育関係が常勤
の専任が六三名、兼務が二名であり、
非常勤は四名の計六九名、事務関係が
常勤八名、非常勤一名の計九名、合計
七八名がお世話になっております。
生徒は、おおむね善良で素直であり、
明るく、まじめであるとともに、おほ
らかさ・やさしさなどの人がらのよさ

は、伝統の重みをひしひしと感じます。
部活動については、学芸部が二二、
体育部が男女に分かれると同じく二二、
計四二の班があり、それぞれ活躍をし
ております。主なものをあげますと、
学芸部ではギター・マン班が全国大会に
おいて優秀賞を受け、三年連続の受賞
ということで大坂市長賞をいただいで
おり、今年八月に愛知県で開かれる
全国高校総合文化祭にも出演します。

ある班の他は、染谷祭に成果を展示し
ています。体育部では、軟式庭球・男
子が、北信越のインドア大会で二連勝
いたし、今年の全国大会では倉敷工高
を破り、優勝校上宮高校と接戦を演ず
るといふ活躍をいたしました。県下
で一・二を争う班は、ソフト(女
子)・籠球・男子などがあり、陸上も
何人かの優秀な選手がおります。野球
は「染谷旋風」という表現で活躍ぶり
を称えられております。その他の班は
東信での活躍はめざましいものがあり

ますが、県大会ではもう一歩というこ
ろで、今後に期待がよせられます。
進路については、約九〇%が進学を
希望し、就職は約一〇%であります。
進学者は現役では約六〇%であり、残
りの約三〇%の者が目標をおとさず、
さらに力をつけようと浪人をしており
ます。持てる力を十二分に発揮してほ
しいと期待しております。

建築の関係では、本校は各学年八学
級、全校で二四学級の規模で推移して
参りましたが、戦後第二回の高校生急
増期に直面しており、しかも上小地区
に新設校がありませんでしたので、本
校も上田・上田東高校とともに一学年
が一〇学級という大規模校になりました。
そのために音楽室を移転新築し、
その跡に六教室の校舎を増築しました。
し、プールの南側の拡張も行いました。
なお部室についても三〇部室と一〇部
室を二か所に新築しました。最近では自
転車通学者が増加しましたので、二か

所にその置場を増設しました。
生徒は「クリーン染谷」を目標に、
床を磨き心を磨いております。また
「グリーン染谷」を相言葉に、緑化の
仕事にも懸命であります。誇るべき内
容が本校には数多いわけでありますが、
正門から校舎へのアプローチの唐楓の
並木は、その一つであろうと思います。
昨年は、紅葉の美しい十月二十八日に
母校を訪問していただきましたが、青
葉若葉の美しいこの頃もまた格別であ
ります。

総会へのお誘い

上田高女・染谷丘高校東京同窓会会長

小林 ぶき子 本科42回卒

夏たけなわ 海に山に若い声は
ずみずみ。会員の皆様、その後お交わ
りくださいませ。今年も、別記によ
り、東京同窓会の総会を開催するはこ
びとなりました。

会場を、昨年までのバストラールから、
神宮の森や根津美術館に近い東京青山
会館(公立学校共済組合東京宿泊所)
にかえて気分を一新し、故郷から合唱
団「コール染谷丘」をお迎えして、若
さを吹き込んでいただくことにしまし
た。美しい歌声満ちあふれる、楽しい
会にしたいと思っております。どうぞ皆様お
誘いあわせのうえ、ご出席くださいま
せ。役員一同心よりお待ち申し上げます
おります。

さて、皆様——ご存知でしたか?
「コール染谷丘」を——。

私達は、昨年九月末、母校の同窓会
総会に出席したおり、染谷丘高校音楽
班OGが組織している合唱団「コール
染谷丘」と出会いました。そのときの
後輩達の活躍ぶり、美しいハーモ
ニーが胸を打ち、帰京する「あさま」
の中で、話はすくままとまりました。
「来年はぜひ、東京同窓会においで
ただごう」と。役員総会を経て、具体
的な交渉に入るまでに、何日もかから
なかつたように記憶しております。先
ず、小林宏子前母校同窓会長にお取り
次ぎいただき、次いで合唱団の指導に
あたっておられる岩森先生と、音大の

て一八年が過ぎようとしています。男
女共学になって一三年目であります。
「聡明な知能」「円満な人格」「健全な
身体」を教育目標にして、母校の教育
の進展のために教職員一同は、さらに
努力して参る覚悟しております。今後と
も相変わらずのご支援ご協力を賜わら
んことをお願いいたします。近況の一端を
ご報告申し上げた次第であります。
終わりになりましたが、東京同窓会
の一層のご発展と、会員の皆さま方の
ご健勝を心より祈念いたし、ご挨拶と
いたします。

「コール染谷丘」の皆様がおいでく
ださることが、本決まりになった頃、
栃木県におすまいのある会員(高15回
卒)から、会長宅へ、こんな電話がか
かりました。「私は、岩森先生が染谷
丘高校へ着任されたとき、在校生でし
た。先生は、大学を卒業されたばかり
で、私達在校生とあまり年齢差がなく、
いつも兄妹のような気分で授業を受け
ておりました。楽しい思い出が、いつ
ぱいあります。同窓会で先生にお目に
かかれるなんて、ほんとうにうれし
い!」きつと、NHKの朝のテレビド
ラマの、神谷先生とチョッちゃん達の
ような間柄だったにちがいないとせん。
岩森先生は、二十年余の長い間、染
谷丘で教鞭をとっておられたとのこと
——。先生の教えを受けた方もたくさ
んいらつしやるはずですよ。二十代、三
十代の若い会員の皆さん、九月二十日
には、遊びにおいでください。あなた
の同期生もきつと上京なさいますよ。
そして、もう一度、懐かしい高校時代
に戻って、「コール染谷丘」の皆さん
と一緒に、大きな声で歌ってみませ
んか。お待ちしております。

28年ぶりの再会
高校11回 昭和34年3月卒業
7組 伊藤クラス 関東地区クラス会
S・62・1・16
行木咲子様提供
前列右から
▽織本瑠子(山本)▽広場朗子(宮
崎)▽上山美登里(吉田)▽速藤富江
(石井)▽木俣美紀子(山下)▽佐藤
正江(山浦)
中列右から
▽行木咲子(吉池)▽長谷川時子(窪
田)▽山岸 環(上原)▽小池幸江
(内堀)
後列右から
▽竹谷千恵(阿部)▽三石千鶴子(清
水)▽松川優子(龍野)▽竹中真知子
(竹中)▽渡辺文子(山口)▽森 美
代(平尾)▽谷口幸江(林)▽花野智
恵(永井) 敬称略()は旧姓



会員のみなさまに——お願い——
東京同窓会の名簿を、昭和六十三年
に発行する予定です。名簿には、昭和
六十三年三月三十一日現在の会員を登
載しますので、年度会費の納入をお忘
れなきようお願い申し上げます。
東京同窓会は会運当費に当てるため
母校とは別個に、年度会費年額千円を
いただいております。

同期会

飯田 寛子 高3回卒

今年の高三回の同期会は、五組の当番で六月十四日、上野のタカラホテルで開かれました。総勢五十四名、信州からも七名の方が駆けつけてくださり、迫田(瀬川)千恵子さんのめりはりのある明るい司会で会が始まり、中華料理に舌鼓を打ちながら、テーブル毎にまた他の席に懐かしい顔を見つけての楽しい語りが続きました。―― 私たち高三回は終戦の年の昭和二十年四月上田高等女学校に入学し、終戦の日を経て、学制改革による併設中学校への移行、更に上田染谷丘高校への入学、そして卒業と六年間を共に過ごしました。(中学卒で退かれた方、高校一年で中退された方、疎開の東の間に学された方もあります。)大正山の学

青葉、若葉の好季節をむかえ、在京の皆様方には、益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。このたびは、思いがけず九月の総会にお招きいただき、東京支部の皆様にお目にかかれることになりました。大変嬉しく存じます。つきましては、簡単に合唱団コール染谷丘について紹介させていただきます。

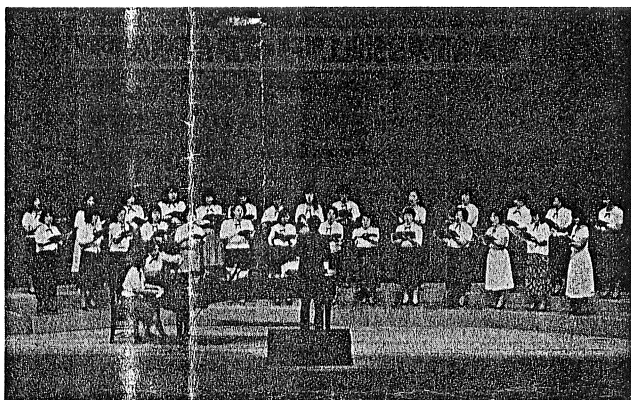
昨年一月四日に行われた音楽班同窓会の席上、「もう一度歌ってみたい」という仲間の声があがり、それが一つになってOG合唱団「コール染谷丘」が誕生しました。私達にとつて染谷丘高校在学中、音楽班で過ごしたことはその大部分を占めています。創作オペラを上演するにあたっては、脚本作りから始まり、曲づけ、キャストイング、衣装、背景作りなど、全員参加によって進められ、練習につき練習の毎日、ようやく完成したときの感激は、格段のものでした。このように高校時代の創作オペラを通して苦楽を共にした仲間だからこそ、年代を越えても和やかに楽しい雰囲気の中、熱心に練習することが出来ます。練習は隔週月二回ですが、その日の来るのを待ちどおしく、忙しく家の中のことをかたづけ出かけていきます。遠くは、長野市、佐久市から一時間以上の時間をかけてあつまってきます。子供のころ、だんなさまのこと、お姑さんのこと、職場のことなど、わずかな休み時間

～はじめまして～



コール染谷丘初代会長 金井貴夜子 高20回卒

と、職場のことなど、わずかな休み時間に話されるこれらのこともなかなか勉強になります。昨年二月一日に発会し、そのときは四十一名の方がたに登録していただき、第一歩を踏み出しました。早速三月九日には、上田合唱祭に参加させていただきました。久々のステージにたいへん感激しました。続いて六月の東信合唱祭、九月には染谷丘高校同窓会の席上、また十一月には母親コーラス祭と、発表する機会をあたらえていただきました。岩森先生も一回目のステージでは、「若き日の胸の熱くなるような喜び



を味わい

二回目のステージでは、

「自信溢れる迫力十分の歌声でしびれるような感動を味わわせてもらった」と、感想を述べてくださいました。

ことしは二年目をむかえ、五月二十四日には第一回発表会を、母校のあった上田市文化会館で開催しました。メンバーも結婚して遠くに引っ越してしまつた人、赤ちゃんが生まれた人、仕事で忙しくなかなか出てこれない人などで、その数は減つたものの一致団結してがんばっております。

指導者の岩森幸宏先生は、現在飯山南高校の教諭でいらつしやいます。染谷丘高校に二十余年音楽科教諭として在籍、その間染谷丘高校伝統の創作オペラの指導にあたられ、すばらしい作品を残されました。また毎年参加

したNHK合唱コンクールにおいても優秀な成績を納められました。コール染谷丘結成以来練習日には、車で二時間余りのみちのりを疲れもみせずかけて下さいます。「指揮棒に密着するように歌ってくださる」とおっしゃって下さる先生を中心にいつまでも若き日の情熱を胸にいだいてこれからも頑張っていきたいと思っております。

墓参

柳沢 静子 高1回卒

お墓まいりには申し分のないお天気に恵まれた三月二十七日、昨春秋ご逝去されました東京同窓会顧問の佐藤松苑先生の墓参に参加いたしました。都心からぬけ出て、高尾駅からバスに乗り霊園前で下車しますと、左に右に広がるみごとな公園墓地。私は一瞬目を奪われました。門がまえの立派な

昭和六十二年年度総会の御案内

古里上田から合唱団「コール染谷丘」のみなさまをお迎えして、左記により

上田高女・染谷丘高校東京同窓会第三十八回定期総会を開催いたします。皆様お誘い合わせのうえ、御出席くださいませ。

記

日時 昭和六十二年九月二十日(日)

受付開始 午前十時から

開 会 午前十時三十分

閉 会 午後二時

会場 東京 青山 会 館

電話 〇三三四〇三一一五五六

東京都港区南青山四一七一五八

地下鉄千代田線、半蔵門線、銀座線・表参道下車

A4出口・徒歩五分

会費 金七千円也(年会費金千円を含む)

含みます。総会ご出席の方は当

都立八王子霊園正門と表示された門をくぐり、管理のゆきといた広い道をさわやかな風に吹かれながら少しのぼると、その高台に明るい春の陽ざしをうけて佐藤先生がねむっておられる墓があります。早くいらして準備して下さった役員の方々、蒲郡市からはお嬢さま御一家母校同窓会顧問の岩下止代様、又東京同窓会歴代の役員だった方々、御生前先生のご近所の親しかったグループの方々など合流して賑やかにお線香をあげ、

藤啓院頌徳美松大姉となられた先生のご冥福をお祈りいたしました。

そえられた色とりどりの花も美しく、香にけむる中で、そえられた会長さん手作りの白いおだんごを一同でいただきながら、先生のご立派に生きぬかれた八十二歳の生涯をしのびました。又墓石の裏側の墓誌には、亡くなられたご主人様のご戒名の下に、享年三十一歳と記されてあり、改めて一昨年の総会でお話を思い出しました。その当時のことを、力をこめて、こまごまと壇上でお話し下さった日のことが忘れられ

日会場でお支払い下さい)

(付記)

◎当日ご欠席の方も年会費(千円)をお振込み願います。

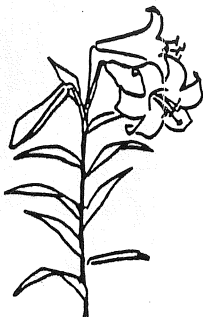
(振替番号 東京九・四五四四番)

◎当日の出席者名簿を準備いたしますので、出欠の返信は九月十日までにお願いいたします。

◎出席の御返信後に、これを取り消される場合は、準備の都合上九月十七日までに電話でご連絡ください。ご連絡の無いときは、会費を頂戴することになります。

(連絡先 〇三一九二一一七三四〇 小林)

◎事務局では、この返信をもとに会員名簿の作成を予定しておりますので、もれなく御返信くださいませ。



お詫び

呼応第一号物故者氏名中、次の方のお名前がちがっておりました。住山幸子(住山美智子は誤り) にごお詫びして訂正させていただきます。

編集後記

☆水は天からのもらいもの――文明都市東京に、まだ、この言葉が生きておりました。井戸水がここを出番とばかりに、濁った夏を癒してくれました。

☆呼応第二号は、東京同窓会総会のお知らせをかねてお届けいたします。総会の日時、会場等お読み落としなきよう。また、返信はがきは、ご記入のうえ必ずご投函くださいませ。これは、会員名簿作成の資料となるものです。

☆「染谷を卒業してから十三年、当時の友が今も大切な友でいる事が、今の私にとって一番うれい事でございます。――」 「あゆみ」をお送りしたときに、若い会員の方からいただいたお便りの一部です。

☆同窓会には出会うの場です。あとした機会に知り合った人が終生の友となり忘れ得ぬ人となる人生の「出会い」。「同窓会」をあらためて考えなおしたことでした。

☆女学校時代の想い出話、文芸作品、同期会だより等、なんでも結構です。皆様のご投稿をお待ちしております。